



に滝坂代表と深野理事が東京乗馬倶楽部のポニー2頭とともに参加しました。

どんとこいみなみ・中村地区センター、市立中村特別支援学校、市立中村小学校などの地域施設が共同開催するこのイベントへの参加は今回で早くも3回目になりますが、飲食の出店等が並ぶ校庭内の特設コーナーで、特別支援学校の肢体不自由の15名余り



の子供たちのほか100名をこえる子供たちに乗馬を楽しんでもらいました。

「去年もこのポニー乗った！」と1年ぶりの再会を喜ぶ子や、帰り際に「またポニー来てね」と馬運車を見送る子もおり、このイベントへのポニー参加が恒例となりつつあることが感じられました。協会ではこのような馬とのふれあいの機会を今後増やしていきたいと考えております。(深野 聡)

会員募集のお知らせ

NPO法人日本治療的乗馬協会では会員を募集しております。会員になりますと定期的に発行されますニュースレターをお届けし、治療的乗馬の最新情報をお伝えします。また、研究会や今後協

会として企画を予定しています勉強会などに会員料金で参加することができます。入会を希望される方は、NPO法人日本治療的乗馬協会事務局03-3813-3819までお問い合わせください。

最新情報につきましては、当協会ホームページ<http://jtranet.jp/>をご覧ください。

※ニュースレター第4号の訂正※

第4号で紹介した「活動を行なっている団体からの活動報告」に報告をいただいた方のお名前を記載しておりませんでした。ここにお名前を掲載しお詫びと訂正とさせていただきます。

ハーモニーセンター 長谷川 まり子 様
あにまるネットワーク・ポニーズ 早津 薫 様

情報の募集

ニュースレターに掲載する記事を募集しております。活動報告は1000字程度と写真。また、団体からのお知らせも募集しております。

掲載を希望される情報等ございましたら事務局まで御連絡ください。次号は平成22年2月発行の予定です。

日本治療的乗馬協会 ニュースレター 第5号

編集・発行 特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会
発行日 2009(平成21)年11月7日

事務局 東京都文京区白山1-20-4 ハウス白山ビル
電話: 03(3813)3819

E-mail: office@jtranet.jp

ホームページ <http://jtranet.jp/>

(編集後記) 10月までは暖かい日が続いておりましたが11月に入った途端冷え込むようになり急遽冬物を出してきました。動物たちも冬支度をはじめたようで、馬たちは一気に冬毛が生えてまりました。暖かい毛皮に包まれて馬たちも一安心といったところでしょうか。日だまりで夏よりも気持ちよさそうに過ごしています。冬毛になって厄介なのは馬を飼っている側です。冬毛で砂浴びをされるとひたすらブラシをかけることになります。これもまた動物を飼うことでしか経験できない醍醐味でしょうか。馬が身近な存在となり誰でもこんな素敵な経験ができるようになることを願っています。(川嶋)



トピックス

馬の出てくる児童書 2

活動報告
馬の学校 3

本協会の活動報告 3

「治療的乗馬」研究会2009が開催されます11月は、治療的乗馬や馬に関係する様々なシンポジウムやセミナーが開催されます。治療的乗馬に関わることや馬に関わることにする演題がそろっております。馬の関する様々な知識を得ることの貴重な機会となることと思います。御興味を持たれました演題がございましたら是非ご参加ください。

「日本での、障害者乗馬の発展を考える」シンポジウム

2009年11月15日(日)14:00～

会場: 東京大学農学部3号館教官会議室 主催: ヒトと動物の関係学会

○パネルディスカッション 「日本での、障害者乗馬発展の戦略を考える」

○スペシャル演題

『グリーンチムニーズ』における馬の活用 金子明日香氏(東京農業大学)

『グリーンチムニーズ』とはいったい何なのか 横山章光氏(帝京科学大学)

○各活動方針とその特徴報告

※詳細はヒトと動物の関係学会ホームページ <http://www.hars.gr.jp/> をご覧ください

「ポニーと子ども」全国フォーラム

2009年11月16日(月) 13:30～ 主催: 財団法人 ハーモニーセンター

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

○基調講演

「馬と友だち(子どもにもたらす影響)」 林良博氏(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

○パネルディスカッション 「ポニー(馬)がもたらす教育的役割について」

※詳細はハーモニーセンターホームページ <http://www.pony-harmony.com/> をご覧ください。

馬事知識普及公開セミナー

2009年11月28日(土) 9:30～

会場: 日本大学生物資源科学部博物館4階第2講義室 主催: 社団法人 日本馬事協会

9:30～11:40 馬の栄養および飼養管理 松井朗氏(JRA競走馬総合研究所研究役)

10:50～12:00 馬の病気 物江貞雄氏(全国公営競馬獣医師協会会長)

13:30～14:30 新たな馬の利活用(ホーストレッキング・エンデュランス)

増井光子氏(よこはま動物園ズーラシア園長)

14:40～16:10 新たな馬の利活用(治療的乗馬) 川嶋舟氏(東京農業大学講師)

※詳細は日本馬事協会ホームページ <http://www.bajikyo.or.jp/> をご覧ください。

日本で出版されている馬を扱った児童書を集めてみると、以下のようなものでした。見つけ出せなかったものがあるとしても、とても少ないと感じるのは私だけでしょうか。これは、日本の文化から馬が遠く隔たってしまったことを意味しているのでしょうか。作品に登場する動物には、作者が意識するかしないかを問わず、その存在や役割に作者の意図が象徴されています。また、その作品が書かれた時代にその動物がどのような存在として社会に認識されているかが反映しています。

動物学者デズモンド・モリスによれば、イギリスの4～14歳の子ども4200人を対象にした調査の結果、馬は好まれている動物の3位に位置しています(1977)。また、ドイツで出版されている馬を扱った児童書がどのくらいあるのかをインターネットで調べてみると、シリーズものを含めて中高生ぐらいの青少年向けの図書が112冊、小学生ぐらいの少年少女向けの本が139冊見つかりました。確かにドイツは乗馬が盛んですが、日本と同様やはりお金持ちの趣味という印象が一般にはあります。それなのに、この違いはどうでしょう！！

○馬と少年 改版 ナルニア国ものがたり

C. S. ルイス 作 瀬田貞二 訳

岩波書店 1986 ISBN : 4-00-115025-5 税込価格 : ¥1,785

○闇のなかの赤い馬 Mystery Land

竹本健治 作

講談社 2004.1 ISBN : 4-06-270569-9 税込価格 : ¥1,995

○黒潮牧場の馬です

菊池 俊 作

新日本出版社 2006.10 ISBN : 978-4-406-03321-3 税込価格 1,470円

○広野の馬

最上一平 作 高田三郎 絵

新日本出版社 1994.11 ISBN : 978-4-406-02287-3 税込価格 1,427円

○神に逆らった馬—七冠馬ルドルフ誕生の秘密

木村幸治 作

祥伝社 1999/04/01 ISBN : 9784396311162 税込価格 : 800 円

○黒馬物語

アンナ・シューエル 作 ヴィクター・アンブラス 画 阿部和江 訳

文園社 2003/10/01 ISBN : 9784893361882 税込価格 : 1,890 円

なお、このなかには絶版になっているものも含まれています。また、価格は税込で示しましたが、変動している可能性があります。この内容は「絵本」も含めてデータベース化し、順次ホームページに掲載していく予定です。その他、皆様にご存じのものがありましたら、事務局まで是非お知らせください。児童書ではありませんが、柳田国男の「遠野物語」第69話は、馬と夫婦になった若い娘の話ですし、民話を掘り起こせば、馬の登場する話は各地にたくさんあるのではないかと思います。これらも是非知りたいものです。

(滝坂信一)

馬 の 学 校

馬の学校は「馬が先生、馬場が教室」を合言葉に2000年に活動を開始した任意団体です。馬とのかかわりの中で体験することを、それぞれの子どもたちに応じた方法で生きていくために必要な力に深めていくことを目的としています。現在、馬の学校としての施設はなく、様々な施設をお借りして年10回程度のプログラムを行っています。また馬の学校のプログラムはすべて少人数制で、参加に関して障害の有無は問わず、必要な場合はボランティアが支援するようにしています。主な活動としては、①ウ



マキャンプ、②ファミリープログラム、③馬とのふれあいプログラムの3つを行っています。

ウマキャンプは山梨県清里高原の牧場で3泊4日、定員6名で行っています。朝早くから担当馬の世話をすることで責任感が養われ、牧場作業の手伝

いをする中で友達と協力することを学び、乗馬を通して新しいことに挑戦する意欲が高まります。保護者からのアンケートでは「子どもが変わったと思うこと」として、「友人に左右されずに、自分を貫ける事例が増してきたように思う。」「一人でもやればできるという自信がついたと思う。」「という回答が得られています。

次にファミリープログラムは、京都府京丹波町の牧場にて日帰り、定員3家族で行っています。ブラシがけやえさ作り、乗馬、馬小屋掃除など親子で体験することで、親は子どもの新しい一面を発見し、子どもは親の新しい一面を発見することができます。保護者からのアンケートでは「嬉しかったこと」として、「子どもの積極的な面を見ることができた。」「次男はいつも見せる表情とは違い、随分しっかりとっていた。」「という回答が得られています。

最後に馬とのふれあいプログラムは、大阪府豊中市の乗馬クラブで約2時間、定員4名で行っています。子ども一人ひとりのペースに合わせて馬と仲良くなることで、自信がつき意欲が高まるとともに、自分の意志を表現するようになってきます。保護者からのアンケートでは「帰宅後のお子さんの様子」として、「意志がはっきりとしていた。」「『楽しかったよ』と言葉で表現してくれた。」「という回答が得られています。

障害の有無にかかわらず、子どもたちが馬とのかかわりでたくさんのことを学び、それが生きる力につながるよう願いつつ、今後も活動を続けていきたいと思っています。(峯崎 友香理)

本 協 会 の 活 動 報 告

○福島県立西郷養護学校

普及活動の一環として、平成21年6月13日、福島県立西郷養護学校(校長・円谷美智子先生)、カントリーライフ21(代表・高橋公正さん)の協力を得て、西郷養護学校で体験乗馬の会を行いました。この日は好天に恵まれ、阿武隈川の源流に近い高原で、参加されたお子さん達がご家族とともにゆったりと馬にふれあい、乗馬に挑戦するほほえましい場面がたくさんありました。西山敷さん(東京大森・ダイシン百貨店社長)をはじめ、この領域に関心を寄せる方々が参観されました。本協会からは滝坂、深野の2名が派遣されました。

(滝坂信一)



○第4回レインボーフェスタ☆みなみ

実践活動の一環として平成21年10月10日(土)、横浜市南区にて開催された『第4回レイン

(次頁へ続く)